

小学校時代の親子関係について

乳幼児期は親子の関係がとても強く、子どもは親に絶対的に依存していますし、親も子どもを保護するという気持ちや行動が強い時です。また、中学生になるとほとんどの子は思春期に入り、子どもの方から親に一線を引いたり反抗したりということも起こってきます。



その間にある小学校時代というのは、親子関係が少しずつ変化していく時期です。

1年生

まだまだ幼児期の特徴が残っていて、親を大きな支えにして甘えたり頼ったりしながら、徐々に学校生活に慣れていきます。お子さんの甘えを受け入れつつ、励ましてあげてくださいね。

2年生

学校生活にも慣れ、習い事など学校以外の集団や親以外の大人にも興味関心が出てきます。

子どもの社会性は「家族以外の大人」との出会いや関わりによって高まる面があるそうです。親戚・知人・お店の人など、いろいろな大人と触れ合う機会を作り、子ども自身がそれらの人たちと関わることをサポートしてあげましょう。例えば、他の大人が子どもに質問した時に、すぐに親が答えてしまうようなことがないようにしましょうね。

3年生～4年生

友だちとの人間関係が広がり仲間意識が強くなってくる時期です。でもだからこそ、仲間に入れないことを怖いと思ったり、仲間外れになった時に傷ついたりもします。そういう時はやはり親に分かってもらいたくなるものです。友だちの悪口を言ったりするかもしれませんが、まずは最後まで聞いてあげて「大変だね」とねぎらってあげましょう。そうすることでエネルギーが補給され、また明日からがんばろうという気持ちになるでしょう。

またこの頃までは大人を素直に受け入れやすいので、母親だけでなく父親も子どもと関わる時間をしっかり取り、親子関係の基礎を築くとともに、大人としての考え（社会のルールや思いやり等）を伝えていきましょう。

5年生～6年生

この時期は人によって身体や心の成長の差が出やすい時です。また思春期に入りかけ、自分に意識が向き始めるため、他の人と自分を比べて違和感や劣等感を感じることもあります。

こういう時期だからこそ話を聞いてあげたり褒めてあげたりすることが大事なのですが、子どもたちは心の奥では親に甘えたい・頼りたいと思いつつ、素直になれない場合も出てきます。

親はそういう子どもたちの状態を理解しつつ、次のようなことに気をつけましょう。

- ①しつこく学校の様子を尋ねるのではなく、何気ない会話を大事にしつつ「最近どう？」と声をかけたり、「何か心配なことがあったらいつでも言ってね」と伝えておきましょう。
- ②どう褒められると嬉しいかはその子によって違います。大袈裟に褒められるのを喜ぶ子もいますが、「オッ！」とか「へー！」といった短い言葉の方が伝わる場合もあります。
- ③親の意見を言う場合は、上からの押し付けにならないよう「お母さんは（お父さんは）こう思うよ」という言い方をしてみてください。（美園小スクールカウンセラー 荻原高子）

スクールカウンセラーの勤務予定日 (6・7月分) 6/15(水)、7/6(水)

相談の申し込み方法 お子さんの連絡帳か電話で、スクールカウンセラーとの相談希望日時をお伝えください。その後、調整をしたいと思います。 美園小：72-8088